

文学あふれる北九州

「文学の街・北九州」発信プロジェクト

プロジェクトメンバーの
越智さんに当日の様子を
お伺いしました

5月21日(土)、23日(月)に「文学の街・北九州」発信プロジェクト(以下:文学プロジェクト)のメンバーが北九州の文学施設などの見学を行いました。文学プロジェクトとは、北九州の文学や文化をあらためて見つめ直し、その魅力をより多くの市民の方には知ってもらうために活動しているプロジェクトです。この施設見学は、新規メンバーに、「北九州の文学、文学施設を知ってもらう」、「今後のプロジェクトの活動をイメージしてもらいやすくする」という2つの目的のもと行われました。

今回の活動では、森鷗外の旧居や松本清張記念館、ナツメ書店や喜久屋書店、北九州市立図書館の5カ所を訪れました。施設や本屋では、自分の好きなジャンルの本を新たに発見するなどの活動も行いました。文学プロジェクトのメンバーは、実際に見



↑今年の3/27に小倉北区鍛冶町にある旧鷗外邸にて「鷗外からの招待状」というイベントを行いました。写真はその時の様子です。

学を行うことで文学施設の雰囲気を感じ、「文学」という言葉に対して感じていた少し堅いイメージを払拭することができました。

プロジェクトの活動に初めて参加した地域創生学群1年の越智さんに施設見学を行った感想と今後の展望を伺うと、「この活動の後、本屋に行った時は本のジャンル分けやどのようなお客さんがいるのかを意識して見るようになりました。今後の活動では、北九州の文学施設の魅力をより若い人たちに発信すること、本に対してあまり関心がないひとたちが小説や新書、漫画といった“紙媒体”に触れる機会を増やしていくことなどを文学プロジェクトのメンバーとして行っていきたいと思っています。」と語ってくれました。

(記事:佐藤・高原)



↑当日の様子と今後の展望を
語ってくれた越智さん

カエルの本棚を設置しました



「文学の街・北九州」発信プロジェクトでは、421Lab.に「カエルの本棚」を設置しています。「カエルの本棚」とは、「読んだ本は自由に持ち寄り読みたい本は自由に持ち帰る」をコンセプトに自由で新しい本との出会いを提供する本棚です。みなさん、ぜひ「カエルの本棚」を利用して下さいね。

編集後記

『Lab. Times 07』を手にとっていただきありがとうございます。内容はいかがだったでしょうか?今回は初めてLab. Timesの制作に取り組むメンバーも多く、取材の仕方や記事の書き方など、多くの場面で悩みながら制作を進めていきました。そんな『Lab. Times 07』ですので、少しでも多くの方々に手にとって読んでいただくと嬉しいです。次号もよろしくお願いたします。



編集長:平洋子

《プロフィール》

文学部比較文化学科3年
421Lab.の運営スタッフに所属して3年目。身長149.3cmと小柄ながら、頼り甲斐NO.1の副リーダー。最近よく考えることは、「私のアイデンティティとは?」。みんなを魅了する強い個性が欲しい。そしてゆくゆくは峰不二子になりたい(笑)



北九州市立大学 地域共生教育センター (421Lab.)
〒802-8577
北九州市小倉南区北方4-2-1(北方キャンパス2号館1階)
Open/10:00-18:00(月~金)
[Tel] 093-964-4092 [Fax] 093-964-4088
[Mail] info421@kitakyu-u.ac.jp
[Web & Facebook & Twitter]

421Lab. 検索

《編集者:平・工藤・佐藤・清水・高原・藤本・三戸》

No.07
2016 Summer

Lab. Times



『Lab. Times』は北九州市立大学 地域共生教育センター 421Lab.が発行している広報紙です。

～地域クリーンアッププロジェクト～



《421Lab.の新プロジェクト!》

「地域クリーンアッププロジェクト」(以下、クリーンアップPJ)とは、地域共生教育センター(421Lab.)の16あるプロジェクトの一つで、今年4月に立ち上がりました。現在1年生16人が中心となって、環境問題をテーマにさまざまな活動を行っています。

《きれいな街は、人の心もきれいにする》

「クリーンアップPJ」の活動の一つに、「green bird」があります。「green bird」は、「きれいな街は、人の心もきれいにする」というコンセプトのもと、世界中で行われている清掃活動です。北九州では小倉・北方・黒崎チームがあり、「クリーンアップPJ」は北方チームとして定例活動を行っています。

green bird×「Keeple」イベント! 可能性の“とびら”を開こう♪

～地域活動で見つかる新しい自分～

《イベントの開催》

6月11日(土)、小倉まなびとESDステーションにて、green bird小倉チームとNPO法人Keepleが合同でイベントを開催し、クリーンアップPJのメンバーも参加しました。

今回コラボしたKeepleは、北九州市立大学の学生が中心となって立ち上がった団体で、放置自転車の整備やゴミ拾いを行っています。今回のイベントでは、「町の環境整備を行いながら、いろんな人とつながりを深めていこう」という共通の考えのもと、普段は別の場所で活動している3つのチームが集まりました。参加者の多くは初対面同士でしたが、実際にゴミ拾いを通して交流を深めることができました。



↑放置自転車についての説明を行っている様子。

《活動を通して》

「…最初は参加しにくいかなと思ったけど、実際はとても楽しかったし、来てみて良かったです。」笑顔でそう話してくれたのは、クリーンアップPJの新メンバーです。「このようなイベントにはあまり参加したことがなかったのですが、人見知りの自分にとっても大きな刺激になりました」とも語ってくれました。また、「北方とは違った空気で新鮮だった。」と驚いていたメンバーや「小倉だけでなく、北方でもこのようなイベントを実施し、クリーンアップPJとしての活動を増やしていきたい。」という積極的な姿勢を見せてくれたメンバーもいました。今回のイベントに参加してくれた各メンバーの経験は、今後のプロジェクトの発展に大きくつながっていくのではないのでしょうか。

421Lab.の新たな取り組みとして今まさに第一歩を踏み出した地域クリーンアッププロジェクト。1年生の手で作り上げられていくプロジェクトのこれからにますます期待が持てそうです。

(記事:三戸)



活動後のクリーンアップPJメンバーです。今後の活動の豊富を書いてくれました。↓



↑お誕生日会で司会進行を行うメンバー



↑お誕生日会の飾りに使われたかえるたち



↑ピンコを楽しむ子どもたち

元気な笑い声は雨を吹き飛ばす！！

6月22日(水)にハッピーバースデープロジェクト(以下ハピバ)主催のお誕生日会が東朽網小学校児童クラブで行われました。当日は約50名の小学生が参加し、6月がお誕生日の子どもたちをみんなでお祝いました。

ハピバのメンバーは子どもたち1人ひとりに特別な誕生日を過ごしてもらおうと、毎回のお誕生日会で季節に合わせた当日の飾りやお誕生日カードの準備、そして司会進行を自分達で考えています。特にメンバー手作りのお誕生日カードには、子どもたちに喜んでもらえるように、毎回子どもたちが好きなキャラクターの絵を描くなどの工夫が凝らされています。

このような準備をして迎えた当日は生憎の雨でしたが、多くの子どもたちが参加してくれて、メンバーが用意した大きなプログラム用紙や飾りを見ながら、まもなく始まる会に胸を躍らせているようでした。会が始まり、お誕生日カードをもらうとすぐに子供たちはカードを開いて笑顔を見せてくれ、また、一緒にケーキを食べたり、ピンコをしりする中で、子供達とメンバーは交流を深めてそれぞれに楽しんでいる様子でした。ハピバメンバーはただ一緒に楽しく遊ぶだけでなく、会を円滑に進行するために周りに気を配り、子どもたちの事を考えたお誕生日会にしようと考えている様子でした。

今回初めてお誕生日会に参加した1年生メンバーも最初は緊張していた様子でしたが、会が進むにつれて、元気いっぱい楽しんでいる子供達につられて、一緒に楽しみながら会に参加することができていました。

お誕生日会の後、メンバーは次回を見据えて今回の会の反省を行っていました。どうしたら子どもたちに話を聞いてもらえるのか、みんなが楽しめるお誕生日会になるのか、子どもたちに喜んでもらうために、反省が活かされた次回のお誕生日会がどうなるのか楽しみです。

(記事：平)

ハッピーバースデープロジェクトは、小学生を対象に誕生日会の企画・実施を主にしています。このプロジェクトは東朽網小学校放課後児童クラブの先生から、「毎月行っている誕生日会をもっと盛り上げて欲しいので大学生に手伝ってほしい」と言われたことをきっかけに始まりました。具体的には、毎月1回東朽網小学校放課後児童クラブを訪れ、「手作り」を重視した温かみある誕生日会を開催しています。オリジナルのバースデーカードなどのプレゼントの作成、飾り付けなど、誕生日会を盛り上げるあらゆる発案・準備を行い、子ども達全員が楽しく過ごすことのできる時間を演出することを目標に活動しています。



↑実際にお誕生日会で子どもたちに渡されたお誕生日カード

北九大で開催！！ 防犯アカデミー



5月21日(土)に「北九州市学生安全・安心ボランティア連絡会議と防犯アカデミー」が行われました。そこで、防犯防災プロジェクトの森茂梨萌さんにお話を伺いました。

Q1 「北九州市学生安全・安心ボランティア連絡会議 & 防犯アカデミー」の内容はどのようなものですか？

「ボランティア活動がマンネリ化している」「他団体と連携し活動の輪を広げたい」などの声を受け、各大学の学生ボランティアが集まり、それぞれの団体間の情報を共有する場を設けることで活動の活性化を図ろうとするものです。また、小学校で地域安全マップ作りを行う上で、まず自分たちが安全マップについて知っておかなければならないので、前段階として実際に作ってみることで安全マップの内容を理解するという機会です。

Q2 当日はどのような様子でしたか？

午前中は北九州市学生安全・安心ボランティア連絡会議が行われ、それぞれが所属する団体の活動や悩みを交えながらワールドカフェ形式で話し合いました。午後からは北方コース、守恒コースに分かれ安全マップ作りを行い、歩いた時に出会った地域の方に危険な場所があるかを聞きながら作成していきました。地域の方の中には、自分の身になにも起こっていないから安全だと思っている方もいちゃって「住んでいる人によって捉え方が違ってきている」と思いました。

Q3 北九大の周辺を歩いてみてどうでしたか？

今まで安全だと思っていた道に多くの危険が潜んでいることが分かりました。一人暮らしが多い北九大周辺に潜む危険だからこそ北九大生に知ってもらいたいです。そのために北九大生向けの安全マップ作りが出来たらなと思っています。



←森茂さんが安全マップの説明を行っている様子

Q4 防犯アカデミーに参加した新メンバーの声を聞かせてください

友達に誘われて何気なく入った1年生が「今回学んだことを小学生にうまく伝えたい」とやる気をみせてくれ、私たちもうれしかったです。

Q5 他大学との交流で気づいたことや学んだことはありますか？

他大学の人はとても社会的で、市役所、警察、地域の方と積極的にコミュニケーションを取っていました。指導する側がしっかりコミュニケーションをとっておかなければ円滑に進めることができないと思うので、私たちも見習わなければならないと思いました。また、九州国際大学ではゼミで地域安全マップ作りを行っており、安全マップについてしっかりと理解したうえで作り方などを教えていたのでとても分かりやすかったです。次回から、私たちも小学生に教えていかなければならないので見習いたいです。



↑参加者に意見を伺っている森茂さん

Q6 今後の課題や発見したことはありますか？

今後の課題は犯罪機会論や安全マップについて理解することです。安全マップを指導するうえで安全マップの第一人者として有名な本を読むことを勧められていましたが、まだ読んでいません。小学生に教える内容を理解するのではなく、安全マップそのものを理解したうえで、かみ砕いて小学生に伝えることが大切だと思います。

(記事：工藤・藤本)



森茂 梨萌 (もりも・りも)

法学部法律学科 2年

2015年～現在、防犯・防災プロジェクトに所属。

防犯・防災プロジェクトに入ろうと思ったきっかけはもともとボランティア活動が好きで人のために何かしたいと思っていたから。北九大に興味を持ったのも421Lab.の活動がきっかけ。また、高校時代から警察官になりたいと思っていて、警察の方と一緒に活動できる防犯・防災プロジェクトに入ることに決めた。

※防犯・防災プロジェクトとは？

北九大生や周辺の地域の方々の「防犯・防災」意識の向上を目指すプロジェクト。

※安全マップとは？

小学4年生を対象として自分の校区を実際にフィールドワークしマップを作成することで小学生自身に「安全な場所」「危険な場所」を判断させる力を養ってもらい防犯意識を高めてもらうもの。